



見て、聞いて、触って、感動!! 移動楽器博物館



移動楽器博物館は、職員が市内の小学校に出向き、楽器を通して、世界各地の人々の暮らしや楽器に込めた思い、工夫を児童に紹介する活動です。毎年4～6校に行き、今年度は5校で開催しました。1クラス1時間ずつ授業をします。1年生から6年生までと学年の幅が広いので、学年に合わせた授業を行います。

楽器はいくつか持っていきますが、持っていけないほど大きな楽器や、貴重なものは、大きな布のスクリーンに描いた絵で紹介します。可愛く描かれた絵を見て「知っている楽器はあるかな?」「初めて見る楽器はあるかな?」と質問をするところから授業が始まります。

特に人気の高い楽器はモンゴルの「馬頭琴」です。小学校2年生の国語の教材で『スーホの白い馬』というお話があります。主人公であるスーホが大切にしていた白い馬が死んでしまい、その馬の体の一部を使って馬頭琴を作ったというお話は子どもたちの心に強く残るようで、とても集中して話を聞いてくれます。モンゴルの人たちはどんな暮らしをしているのか、どんな食事をしているのかパネルを使って解説します。

モンゴルの遊牧民はゲルと呼ばれるテントに住み、家畜たちの餌になる草がなくなると住む場所を変えます。もちろんテントのゲルもたたんで運びます。移動には馬を使い、馬の乳からは馬乳酒というとても栄養価が高い飲み物を作ります。馬は身近な存在で、生活には欠かせない生き物なのです。馬頭琴に込められる思いも、そういった生活から見えてきます。

その他にもインドネシアの竹の楽器「アングルン」も持っていきました。「竹のハンドベル」ともいえる楽器です。1つの楽器で1つの音しか出ません。小さいものは高い音、大きなものは低い音が出ます。一人1つ、または2つか3つ持って、みんなでアンサンブルをします。インドネシアでは学校の音楽教育や音楽療法でも使われているそうです。授業では一人1つずつ持ち、「きらきら星」などのよく知っている曲を演奏しました。初めて触れた楽器ですが、どのクラスでもとても上手に演奏できました。

また、世界中の楽器の音を聴くことができる博物館オリジナル「音源キット」を今年度から新しくし、音に加えて映像も楽しめるようにしました。アフリカの太鼓、中米カリブの「スチール・パン」、スコットランドの「バグパイプ」、インドネシアの「ガムラン」など、全部で11種類の映像を見ることができます。これまでは音だけだったのですが、映像もあるとより理解が深まり、何度も映像を見に来る児童もいました。

楽器を通して見える世界の国々の生活や文化の話に、どの学校の児童も目を輝かせて聞いてくれます。移動楽器博物館が終わると、お手紙をいただいたり、家族の方と一緒に博物館に来てくれたりします。きっと何かが子どもたちの心に残っているのでしょう。

・県居小学校	6/4 (火) ~ 6 (木)	264人
・佐久間小学校	6/18 (火) ~ 19 (水)	50人
・中郡小学校	6/24 (月) ~ 28 (金)	578人
・追分小学校	9/24 (火) ~ 25 (水)	220人
・曳馬小学校	10/7 (月) ~ 11 (金)	729人
		計 1841人

レクチャーコンサート 「インドネシア バリ島の世界無形遺産 影絵人形芝居 ワヤン・クリ
武将クンバカルナの戦死～古典文学「ラマヤナ物語」より」



日 時：平成 25 年 10 月 14 日（月・祝）14:00～16:30
会 場：アクトシティ浜松 音楽工房ホール
出 演：梅田英春（ダラン） 片倉保夫（ダラン補佐）
長谷部匡（ダラン補佐） ギータ・クンチャナ（ガムラン）
入場者：116 人

ワヤン・クリは皮人形を使ったインドネシアの影絵芝居のことで世界無形遺産に指定されています。本年の夏にはジャワ島のワヤン・クリを上演しましたが、今回はバリ島のワヤン・クリです。「ラマヤナ物語」というお話から『武将クンバカルナの戦死』という部分を上演しました。

ダラン（人形遣い）はバリ島で本格的な修行をされた静岡文化芸術大学教授の梅田英春さん。ガムランの演奏は、大阪を拠点に活動するギータ・クンチャナの皆さんです。

梅田さんは、全ての人形を操り、台詞をしゃべり、ガムランの伴奏に指示を出します。一人でいくつもの役を演じるのですが、まるで別の人が声を出しているように聞こえました。人間だけでなくサルの声も演じたのですが、とても迫力がありました。現地ではインドネシアの古い言葉のカウィ語とバリ語で上演しますが、浜松ではカウィ語と日本語で演じてくださいました。コミカルな場面では浜松をテーマにして、浜松祭りのラッパを演奏したり、時事問題を取り上げたりと、大人も子どもも笑ってしまう演出がたくさんありました。

ガムランの演奏は戦いの時には激しい音楽を、落ち着いた場面ではゆっくりとした音楽を奏でます。異国の雰囲気漂う会場で楽しむ影絵芝居は、まるで現地で楽しんでいるようでした。

レクチャーコンサート 「共鳴する弦 ～ 19 世紀ギターとスクエアピアノの対話」

ギター奏者のダリオ・マカルーソさんとフォルテピアノ奏者の岩村かおるさんをお迎えして 19 世紀のギターとスクエアピアノのデュオコンサートを開催しました。お二人はラ・コルデ・ヴィブランテ（振動する弦という意味）というデュオで活動されており、この秋から初の日本ツアーを行っています。

演奏する楽器は当館所蔵のスクエアピアノ（T. ラウド作 1805 年製 ロンドン）を使用しました。ギターはダリオさん所有の楽器（L. パノルモ作 1859 年 ロンドン）です。スクエアピアノは 18 世紀中頃から 19 世紀にかけて使われた楽器です。グランド型のピアノよりも価格が低かったため、とても人気がありました。トンマーゾ・ジョルダーニ作曲の「ギターと通奏低音のためのソナタ ハ長調」、フェルディナンド・カルツリ作曲の「3つのワルツよりベートーヴェンの主題による変奏曲 作品 169」、今回の日本ツアーのために作曲されたというハウプ・エマー「遙かな土地」（世界初演）などが演奏されました。また、演奏する作品の紹介やオランダで暮らす作曲家についてのお話もありました。スクエアピアノとギターの相性はとても良く、その軽やかな音色は心地の良いものでした。



日 時：平成 25 年 10 月 26 日（土）18:30～20:30
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：ラ・コルデ・ヴィブランテ
（ダリオ・マカルーソ 岩村かおる）
入場者：39 人

本年4月に開催された国際古楽コンクール〈山梨〉で最高賞を受賞されたソプラノの岡村知由紀さん（声楽部門 第2位）とフラウト・トラベルソの吉崎恭佳さん（旋律楽器部門 第3位）のお二人をお迎えしてコンサートを開催しました。今回は第17回の同コンクールで入賞されたチェンバロの野澤知子さんも伴奏（チェンバロ）で出演してくださり、三人が織り成す古楽の音色に耳を傾けました。

トリオでは J.S. バッハ作曲の「コーヒー・カンタータよりリースヒェンのアリア《ああ、コーヒーって何とおいしいこと》」などが演奏されました。岡村さんと吉崎さんはあまりお話が得意でないと言われながらも曲の間に解説や、なぜ古楽を始めたのかといったことを質問形式でお話されていました。時折会場からも笑いがおこり、とても和やかな雰囲気となりました。

イブニングサロン

「国際古楽コンクール〈山梨〉2013 入賞者コンサート」



日時：平成25年10月11日（金） 19:00～20:00
 会場：楽器博物館 天空ホール
 出演：岡村知由紀（ソプラノ） 吉崎恭佳（フラウト・トラベルソ）
 野澤知子（チェンバロ）
 入場者：26人

イブニングサロン

「郷愁のウィーン、チターにのせて」



日時：平成25年10月27日（日） 18:30～20:15
 会場：楽器博物館 天空ホール
 出演：ヴィルフリート・シャルフ 常石さやか
 打越島三
 入場者：69人

当館名誉館長、大阪音楽大学名誉教授の西岡信雄さんによる講座「楽器の中の聖と俗」（全3回）の第2回を開催しました。今回はハンガリアン・ダンス「歌って踊って、三世代競演」です。ハンガリーでは息子と娘、父と母、おじいさんとおばあさん、この3世代が宴でそれぞれの世代の違いを主張しながら歌ったり踊ったりします。老練の渋みを感じさせる第1世代、元気はつらつの第3世代、この両極をつなぐ第2世代、と世代による個性ある踊りが印象的です。ただ1つの家族に必ずしも3世代が揃っているとは限りません。揃っていない場合は近所の人の中から青年世代、親世代、お年寄り世代を意図的に募って組み合わせます。皆ダンスが大好きなので快く引き受けてくれるそうです。他にも子どもからお年寄りまで様々な世代がハンガリー民謡を歌うことができたりと、今の日本ではなかなか見られない貴重な光景を紹介しました。

リンツ音楽大学教授のヴィルフリート・シャルフさんをお迎えしてチターのコンサートを行いました。シャルフさんの独奏や教え子である常石さやかさん、打越島三さんとの二重奏、三重奏も披露されました。チターは、オーストリア、ドイツ、スイスを中心に使われている楽器です。うすい木の箱の上に5本のメロディーを弾く弦と30本以上の伴奏を弾く弦が張られています。一人でメロディーと伴奏を演奏するので、2つの楽器を同時に演奏するように聴こえます。さらに、今回はチターを世界的に一躍有名な楽器にした映画「第三の男」のテーマ曲「ハリー・ライムのテーマ」や、シャルフさんが作曲した「Andalusia」、「Esprit」も披露して下さいました。そして、シャルフさんより吉報が届いています。新年恒例のウィーン・フィルハーモニー管弦楽団によるニューイヤーコンサート2014に出演されるそうです。新年の楽しみがまたひとつ増えましたね。皆さん、是非TV中継をご覧下さい。

講座

「楽器の中の聖と俗 ハンガリアン・ダンス②」



日時：平成25年10月29日（火） 18:30～20:00
 会場：楽器博物館 展示室
 講師：西岡信雄 受講者：19人

ミュージアムサロン

「アンサンブル・ムジーク女声合唱団」

アンサンブル・ムジーク女声合唱団は浜松を中心に活動をしている団体です。グノー作曲「アヴェ・マリア」や、魚路恭子作曲の「純銀もぎいく」など幅広い年代の曲を披露してくださいました。また、途中にはヴァイオリン演奏でバッハ作曲の「G線上のアリア」も演奏され、全部で10曲を演奏。多くのお客様が、澄んだ歌声に楽しそうに耳を傾けていらっしゃいました。拍手喝采の中、アンコールには滝廉太郎作曲「荒城の月」を演奏。秋の一日、しっかりとミニコンサートが行われました。



日 時：平成 25 年 10 月 20 日 (日) 14:00、15:30 (各 30 分)
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：アンサンブル・ムジーク女声合唱団 (10 人)
河野真剛 (指揮) 山崎恵子 (ピアノ) 入場者：140 人

NHK「たっぷり静岡」 楽器博より生放送



NHK静岡放送局が毎日夕方6時10分～7時に放送している静岡地方のニュース番組「たっぷり静岡」。そのスタジオを離れての生中継が、10月30日(水)と31日(木)に浜松から行われました。NHK浜松支局開局80周年記念でもあります。6人のキャストと大勢のゲストのみなさんが、30日は静岡大学工学部キャンパスから、テレビの発明をはじめとする浜松の科学技術力を、31日は楽器博物館地下展示室と天空ホールから、音楽の町浜松の魅力を、発信してくださいました。全国放送ではないので全国の皆さんにご覧いただけなかったのが残念ですが、浜松を知っていただくいいチャンスになったと思います。

博物館日誌

- 10/7 (月)～11 (金) 移動楽器博物館 浜松市立曳馬小学校
- 10/8 (火) 楽器博物館友の会「館長によるクオアチア報告会」
18:00 研修交流センター402会議室 参加者：44人
- 10/11 (金) イヴニングサロン
「国際古楽コンクール(山梨)2013入賞者コンサート」
19:00 天空ホール
出演：岡村知由紀、吉崎恭佳、野澤知子 入場者：26人
- 10/14 (月) レクチャーコンサート
「インドネシアバリ島の世界無形遺産彫刻人形芝居「ワヤン・クリ」
武將クンバカルナの戦死～古典文学「ラマヤナ物語」より」
14:00 音楽工房ホール
出演：梅田英春、ギーター・クンチャナほか 入場者：116人
- 10/20 (日) ミュージアムサロン「アンサンブル・ムジーク女声合唱団」
14:00、15:30 天空ホール
出演：アンサンブル・ムジーク女声合唱団 入場者：140人
- 10/26 (土) レクチャーコンサート「共鳴する弦～19世紀ギターとスクエアピアノの対話」
18:30 天空ホール
出演：ラ・コルデ・ヴィブランテ(ダリオ・マカールソン、岩村かおる)
入場者：39人
- 10/27 (日) イヴニングサロン「郷愁のウィーン、チターにのせて」
18:30 天空ホール 出演：ヴィルフリート・シャルフ、常石さやか、打越島三 入場者：69人
- 10/29 (火) 講座「楽器の中の聖と俗」(全3回)
「ハンガリアン・ダンス②歌って踊って、三世代競演」
18:30 展示室 講師：西岡信雄 受講者：19人

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります。
- 展示品の演奏デモンストレーション 毎日数回
チェンバロや19世紀のピアノなどのデモ演奏
- レクチャーコンサート
平成24年度文化庁芸術祭レコード部門「大賞」受賞記念コンサート
「イギリス・ソナタ～プロードウッド・ピアノ 新世紀の響き～」
11/12 (火) 19:00 音楽工房ホール 出演：小倉貴久子

- 「19世紀サクソフォーンのエlegance～アドルフ・サククスオリジナルサクソフォーンの魅力～」
11/16 (土) 18:30 天空ホール
出演：赤松二郎、猿渡裕介、中谷龍也、飯守伸二、寄藤佳織
「フィンランドの古代楽器「ヨーヒッコ」北欧のクリスマス支度」
11/25 (月) 19:00 天空ホール 出演：ヨウヒオルケステリ
「オカリナの故郷イタリアから「元祖」オカリナ七重奏
オカリナ七重奏団 GOB - ゴブ -」
2/2 (日) 18:00 音楽工房ホール 出演：オカリナ七重奏団 GOB
- レクチャー
「オカリナの故郷イタリアから「元祖」オカリナ七重奏
オカリナ七重奏団 GOB - ゴブ -」
2/2 (日) 13:30 音楽工房ホール
講師：オカリナ七重奏団 GOB メンバー
- イヴニングサロン
「17-18世紀のギター音楽 バロックギターとイングリッシュギター」
11/30 (月) 18:30 天空ホール 出演：竹内太郎、井上景
- 講座「楽器の中の聖と俗」(全3回)
11/11(火)「ハンガリアン・ダンス③田園が似合う楽器たち」
講師：西岡信雄 18:30～20:00 展示室
- ミュージアムサロン いずれも天空ホール
11/23 (土)「フルートアンサンブル」
14:00、15:30 出演：浜松フルートクラブ
12/1 (日)「リードオルガン&ソプラノ」
14:00、15:00 出演：鈴木開、名倉亜矢子
1/4 (土)「馬頭琴」 出演：福井則之
1/5 (日)「フルースー」 出演：伊藤悟
- ワークショップ
「韓国の伝統太鼓「チャンゴ」を演奏しよう！」
2/16 (日) 13:30 研修交流センター37セミナー室
講師：リ・チャンソプ



浜松市楽器博物館だより

平成 25 年 11 月 10 日発行 No.83 編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp URL http://www.gakkihaku.jp/